

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101869
法人名	医療法人 啓正会
事業所名	グループホーム モン・サン時津
所在地	長崎県西彼杵郡時津町浜田郷字中角 5 7 2 (電 話) 095-882-1225
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町 5 番 3 号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成 20年 3月 27日

【情報提供票より】 (平成 19年 4月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	19 人
利用定員数計	27 人
常勤	13 人
非常勤	0 人
常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	15,750～16,275 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / ○無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		840 円	

(4) 利用者の概要 (3月27日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護 1	1 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	8 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 啓正会 清水病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道より離れた自然環境にめぐまれた場所に立地している。ホームのまわりは季節感が感じられ、朝は犬の散歩の人々で、又側には公園があり子供の声がかかる。居室、リビングが広く、リビングを囲んでの各部屋の作りが利用者の孤独感がない。各ユニットの職員が、理念である ” 明るく、楽しく、元気よく ” の介護姿勢に対する考えをしっかりと持っている。又ベテランのケアマネージャーが的確に思いを組みとり職員の良い手本になっている。ホームの行事の時は法人グループの他のホームより応援にて交流をはかるなど、いろいろな面からホームの向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 前回の改善項目である馴染みの持てる理念はわかり易く掲示してあり、自立に向けた支援や、徘徊の利用者のシューズの鈴は全職員で取り組んでおり、運営推進会議開催のための努力も確認できた。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 自己評価においては、評価項目の内容の変化に伴い、地域との関わり方についての話し合いがなされ、全職員での取り組みがなされている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 自治会長、民生委員、住民代表、利用者、家族に運営推進会議の内容を説明し、相談をして、出席もらうように働きかけている段階である。まもなく開催できる予定ですすめている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 家族の意見や要望は、アンケート箱を玄関の入り口に設置している。職員は日々の利用者との対応の中や、家族の面会の時に話したり相談の中より聞き取り、要望や意見の反映に努めている。家族と利用者の間では難しい所もあるが、できる限りの対応がなされている。
	④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) ホーム近隣の公園までの散歩では、声かけをしたり挨拶をしたりしている。裏の畑で野菜を作っている方から、野菜を頂くなど少しずつではあるが、交流につなげる努力がされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を基に、地域密着型サービスの意義を全職員が確認し、地域での安心した暮らしや地域生活の継続を支えるため、事業所の地域への役割ということを話し合っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関入り口に掲示してあり、職員は常に利用者に対して、明るく、やさしく接することを心がけており、職員は経験年数に限らず常に職員同士の思いを伝え合い理念が通常の生活の中で実践する取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に所属し、町内会の一斉清掃や夏祭りのお誘いのチラシを手配りする等、町内の青少年を守る「こども110番の家」や地域の方との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での改善項目については、各ユニットリーダーが話し合い改善シートの作成を行っており、改善に向けて全職員で取り組みがなされている。今回の自己評価については各ユニットの計画作成担当者が各自のユニットの内容を取りまとめ、1つのものを作り上げている。		

グループホーム モン・サン時津

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、住民代表、利用者、家族に説明や相談をして、運営推進会議に出席してもらうように働きかけを行っているが、運営推進会議は、まだ行われていない。	○	現在、時津町包括支援センターや自治会へ施設長による働きかけが行われており、運営推進会議の準備段階である。各委員の意見を参考にして日々のサービス向上に繋げるためにも来期早々には開催を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者には地域包括センターからの紹介で入居に至った方もおり、先方から空室状況の問い合わせ等もあり、こちらからも相談に出向く関係を築いており、今後、機会があれば連携できる分野での協力も可能な状況である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族には毎月利用料請求書と一緒に、利用者が日常使った立替分の領収書や日常の利用者の様子などを郵送している。家族の面会は毎月あるので、その時に職員の異動の報告や、意見や受診時の費用の相談などがなされコミュニケーションを図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は普段の雑談の中からも苦情や不満が感知できるよう気がけており、「苦情箱」も設置されているが、苦情等の外部申し出先が家族にわからない状況である。	○	苦情等の外部窓口を家族にわかるように書類に明記し、説明することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長は職員の異動を最小限に抑えるよう考えて、異動はユニット間で行われている。日常からユニットを超えて顔なじみの関係作りを行っている。		

グループホーム モン・サン時津

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修について職員全体に掲示があり、職員の介護レベルに応じた研修に参加できる状態が確保されている。その報告は逐一行われており、全職員が共有できる体制が整っている。研修委員会が設置されており、職員の希望する研修をくみ上げている。身体拘束の研修会は月一度行われ意識統一を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、他施設の同業者との研修、他ホーム職員と介護情報の交流がある。また、他施設からの見学希望も随時受け付け可能である。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、入居前に家族と相談し、本人の見学で意志決定のもとに、サービスが成されている。また入居直後には、職員が利用者の馴染み親しんだ土地名、家族の名前を出して声かけのきっかけにし、安心してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な所を見つけ職員全員で共有しており、普段から利用者に教えてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が傾聴に心がけ、信頼関係を築き表にでやすいようにしている。また、いつもの様子の違いを察知できている。言葉の不自由な方の場合、日々の行動や表情から汲み取りそれとなく確認するようにして、思いや希望が把握できるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が安心して暮らせるように、かかりつけと家族との相談のもとで職員と話し合い計画作成者が作成後、原案を家族が確認している。また来所できない家族には郵送を行い確認印をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎の見直しだが、全体の職員が月1回のアセスメントで情報交換を行い確認し、家族や利用者の要望を取りつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には家族と方針を話しあい、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて柔軟な支援をしている。本人や家族の要望での外出、法事による帰宅等が行われている。また入院した利用者への早期退院に向けて支援として看護師がパイプ役となり支援が成されている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、特別の治療を必要とする利用者については、家族とも相談し、入居前のかかりつけ医での医療を定期的に受診し、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に重要事項説明書の補足として「重度化した場合の対応に関する指針」が説明されており、重度化した場合や終末期のあり方について、普段から職員や家族などとも話している。状態の変化がある時は、協力医と連携して対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者に向けて発する言葉や内容には十分注意を払っている。利用者一人ひとりに合わせた言葉使いに心がけ、又他の家族や外来者に対しても、全ての職員が個人情報保護法の理解に努め守秘義務が徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは設定はされているが食事や入浴も無理がなく、利用者の気持ちを尊重し、利用者のペースに合わせてながら無駄な声かけはせず、見守りの支援がされている。		

グループホーム モン・サン時津

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	家族との話し合いの中から、利用者の嗜好物やアレルギーを聞いて献立を作成している。又、皿拭きや料理の手伝いなど職員と利用者が一緒に行っている。ひな祭りにはちらし寿しといったように季節の食材を入れて、食事の楽しみができるように工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回と決めているが、希望があればその都度対応している。午前と午後で風呂の湯の入れ替えや、温度調整をして湯冷めしない努力がされている。入浴したまらない方の場合には時間をおき、再度声かけをしたり、清拭して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や特技を活かした活動を促し、花の水かけや洗濯たたみなどは自主的にされている。家族の面会時には一緒に外出して過ごせるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は近隣の公園まで散歩に出かけたり、買い物や、週に1度の検診時にはドライブを兼ねて戸外に出かける支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本年度より身体拘束についての勉強すると同時に、鍵をかけないケアについての勉強をしている。職員全員で利用者の見守りをこころがけ、日中は鍵をかけない取り組みがなされている。		

グループホーム モン・サン時津

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署、職員、利用者を含めての避難訓練、避難経路の確認、夜間想定の実施を行っている。周辺地域へ声をかけ参加を促している。又半年に1度備品関係の点検を行っている。ただし避難経路図が確認できなかった。	○	避難経路図の準備をし常に意識できる環境を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを聞きながら献立を作成し、栄養バランスは法人栄養士の確認がある。摂取量は業務日誌に記録し把握している。水分量は毎食のお茶や吸い物、薬の水、部屋にはペットボトルが置かれ、状態に合わせて確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は非常に広くとられており、利用者が動きやすいようになっている。リビングを囲んでの居室は利用者にとっては寂しさがなく、職員の間も居心地よく過ごせるようになっている。室内は陽射しも入り、窓からは季節感が味わえる作りとなっており、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くて明るく、自分のダンスやテレビ他利用者の小物も使い慣れた物を配している。写真やぬいぐるみなどがあり居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

※  は、重点項目。